

関口存男における前置詞 mit

著者	佐藤 清昭
雑誌名	浜松医科大学紀要. 一般教育
巻	19
ページ	25-47
発行年	2005-02-25
URL	http://hdl.handle.net/10271/19

関口存男における前置詞 mit

佐藤 清昭

(日本語・日本事情)

Die Präposition "mit" bei Sekiguchi T.

SATÔ Kiyooki

Japanisch u. Japanische Angelegenheiten

Zusammenfassung

Der japanische Philosoph und Sprachwissenschaftler SEKIGUCHI Tsugio (1894-1958) wollte nach seinem monumentalen Werk "Der Artikel" (Tokyo 1960/61/62, 3 Bde., insgesamt 2 301 Seiten) Arbeiten wie "Die Präposition", "Das Adjektiv", "Das Adverb" u. a. schreiben, die aber wegen seines Todes nicht ausgeführt werden konnten. Uns, die ihm nachfolgenden Forscher, interessiert nun, was für Werke über diese Themen in Bezug auf Inhalt, Form und Umfang entstanden wären.

Die Absicht der vorliegenden Arbeit besteht darin, die Bedeutungstypen ("imi keitai") der Präposition "mit", die sich bei SEKIGUCHI's Werken und bei seiner Sammlung der Beispielsätze, Collectanea, befinden, aufzuzählen und ordnungsgemäß darzustellen.

Es lassen sich bei SEKIGUCHI 22 Bedeutungstypen von "mit" feststellen, die teilweise in Über- und Unterverhältnissen stehen.

key words: SEKIGUCHI Tsugio, grammar, preposition, German preposition "mit"

キーワード: 関口存男, 意味形態, 前置詞, mit

0. はじめに

0.1. 佐藤は、「関口存男による前置詞の意味分類」(2000)で次のことを試みた。

- a) 関口の著作と文例集に現れる前置詞の「意味類型」のうち、確認できたものをすべてあげ、その出典箇所と文例を示す
- b) この意味類型の「羅列」を学問的に秩序だてる上で必要な観点について述べる

この論考の目的は、ドイツ語教育に資すること、そして未完に終わった「前置詞論」の概観をえることであった。

0.2. 続いて「前置詞研究のあり方 『関口存男：前置詞論』試案－anを例として」(2002)では次のように述べた。

関口にもし「前置詞論」を著す時間があったならば、それは「前置詞の『意味の種類』」を明確に把握し、それらを徐々に系統づけていくという形をとったであろう。そしてその過程では、それぞれの前置詞が「どういう意味形態の動詞と結びつくか」が最終的な識別点になったと考えられる。

しかし、「どういう動詞と結びつくか」ということが識別点になるとはいえ、前置詞の「意味形態」は、一方的に（それを支配する）動詞の影響下で生じるものではない。そこには前置詞の側からの「働きかけ」が存在する。つまり、それぞれの前置詞に特有の、いわば「本質」とも言うべき「意味」が存在し、それゆえに一定の動詞がその前置詞を支配して、その場合の（前置詞の）意味形態が生じると考えるべきである。

この、前置詞の「意味の本質」とは、例えばanがanそのものとして持つ意味内容、つまりanという前置詞が、in, aufその他の前置詞から区別される意味内容であり、anという形態に純粹に「言語的」に、一義的（primär）に対応する意味内容である。言語理論的には「言語体系（Sprachsystem）」に属し、構造主義言語学はそれを「体系上の意味（System-Bedeutung）」と呼んで、自らの研究対象とする。

同論文ではこれに続いて前置詞anの「本質」を次のように規定し、それから派生する22の「意味形態」を関口の著作と文例集（Collectanea）の中に確認した。

inの反対である。inが内部を指すに対して、anは外部を指す。ただし「外部」といっても、außerやaußerhalbとはちがって、そのものを遠く離れた外部を指すのではなく、すぐそのものの一部をなしている「外面」、またはすぐそのものに接触する「域」を指す。

「外面」*An einem Körper* bemerken wir zwei Eigenschaften: seine Gestalt und seine Farbe.

「域」 Der Wagen hielt *am Bürgersteig*.

0.3. 佐藤 (2003) では auf の 34 の「意味の種類」を整理し、佐藤 (2004) では in の「意味の種類」を 25 確認して例文とともに示した。本稿では前置詞 mit を論考の対象とする。

1. 前置詞 mit の「基本的な意味」と意味形態

1.1. 前置詞 mit の基本的な意味

関口の言う「mit の基本的な意味」とは、佐藤 (2002) で見た「an の本質」に相当する。「mit の基本的な意味」は次のように説明される。

「mit の基本的な意味は勿論『云々と共に』ですが、たとへば Ich gehe mit ihm と云へば、ich の方が主として考へられ、その次に、それに附帯して er と云ふ人物が問題になります。mit はつまり「附帯的」なものを擧げる時に用ひると云へば、その諸種の用法が先づ漠然と定義されるわけです。「を持つて」でもなく、「と共に」でもなく、「と一緒に」でもなく、日本語の「で」でもなく、それら凡てに共通な mit の概念は何かと考へて見ると、これはかなり漠然たるもので、何等かの定義が可能であるとすれば、それは「主なるものに對する副なるものの關係を擧げる」といふか、それとも單に「附帯的事實を擧げる」とでも云ふより仕方がないでせう。」(前置詞の研究, S. 15, 下線佐藤)

「主なるものに對する副なるものの關係を擧げる」という「mit の基本的な意味」から、次節のような意味形態が派生する。

1.2. mit の意味形態

① 付帯描写の mit

Es wurde allmählich ganz dunkel, die Stadt *mit ihren glitzernden Laternenreihen* rückte immer näher. (P. Z. von Manteuffel)「だんだんと真っ暗になっていった。きらきら光る街灯を並べた街がますます近くに迫ってきた」| Die Freude am Stierkampf *mit allen seinen Grausamkeiten* ist eine Leidenschaft, die tief im spanischen Volke verankert ist. 「闘牛とそのあらゆる残虐性に対する喜びは、スペイン人の心の奥に深く根ざした情熱となっている」

Ich bin kein ausgeklügelt Buch, / Ich bin ein Mensch *mit seinem Widerspruch*. (Meyer) わたしは理詰めでごね上げた本とはわけがちがいます, / わたしはつまり人間で、齟齬も矛盾もございます

- ♥ 「付帯描写の mit」は、「付帯描写の in」と意味形態がほとんど同じである。この *mit seinem Widerspruch* を *in seinem Widerspruch* に変えても意味は大して変わらない。また例えば次の例の「付帯描写の in」の代わりに mit を置いても、あまり大した感じの差はない。

Ein guter Mensch **in seinem dunklen Drange** / Ist sich des rechten Weges wohl bewußt. 真の人はその混沌たる努力本能のうちにも正道を過たず

- ♥ 「付帯描写の mit」も「付帯描写の in」も、たいていの場合、物主冠詞をその次に伴う。その物主冠詞は、必ず直前の名詞（或いは近い名詞）を受けけるものでなければならない。
- ♥ 「付帯描写の mit」と「付帯描写の in」で導かれる句は、たいていの場合名詞付加的であることが特徴である。

Die Zeit **mit ihrer politischen Zerrissenheit und leidenschaftlichen Parteipolitik** trägt vielfach die Schuld an dem Verfall der Wissenschaften und Künste. 現代とその政治的分裂・狂熱的党派制策は、往々にして学問芸術の衰退の因となる

- ♥ この Zeit を、単なる「時」ではなく、ある種の特殊な色彩をもった Zeit と考えれば、本当は mit 以下の長ったらしい形容が無くても、それらの事柄はすべてこの Zeit 一語の中に暗に含まれている。しかし Die Zeit 一語だけで、その中にゴヤゴヤと含まれている党派運動や闘争や、ジャーナリズムや、ベースボールや、エロや、グロなどを一言不可説的にパッと感じろというのは少々無理である。筆者としては、Zeit の中に暗に含まれているものを、念のために explizite に言いたくなる。そういう時に用いられるのが「付帯描写の mit」ということになる。

この例においても、mit の次に、ここでは2つだけしか名詞がないが、いわばそのほかにもいくらか並べても構わない。つまり usw., usw. という気持ちである。必ずしも usw., usw. ではなく、特にひとつの性質だけを強調する場合もあるにはあるが、「付帯描写の mit」をもっとも純粹に表わすのは usw., usw. の意味の場合だと言える。

またこの mit は、時とすると（主体と副体とを一括する意味で）samit 「...とも」、mitsamt 「...もろとも」、nebst 「...ぐるみ」で言い換えられる。その際は、主体とその内容（または性質、付帯的事実、「つきもの」）との間に大した区別を認めず、いわばまあ邪魔くさそうに数個の概念を一括して、どれが主でどれが副だとも決めないで、とにかく「そういったようなもの凡てが」といったような意味に用いることがある。この samt, mitsamt, nebst で置き換えられるという点が、多少極端な場合のみに通用する観察ではあるが、この mit の意味形態を最も明らかに暗示している。

【adnominal 名詞付加的の例文】

Auch die Technik **mit ihrer grossen Bedeutung** für das Wohlergehen der Nation und **ihrem Nachwuch-Problem**, welches nur im Rahmen der Erziehungsreform und Arbeitspolitik zu behandeln ist, soll bei jeder Programmaufstellung Berücksichtigung finden. 技術は国民の福祉に重大な意義を持ち、また後進養成

の問題というものがあって、これはどうしても教育制度の改革と労働政策とのわく内において取り扱うべきものであるから政綱を建てる時には技術というものに対しても考慮が加えられる必要がある | Der Hegelsche Rationalismus *mit seinen sich spaltenden und entwickelnden Ideen* ist ebenfalls in seinem innersten Wesen deutsch, d. h. dynamistisch und aktivistisch. 観念の分裂と発展を説くヘーゲルの唯理主義もまた、その根本的本質においてドイツ的である、すなわち動的、かつ行動主義的である | Die Bäume und Gesträuche *mit ihren edlen Früchten*, vor allem der Oelbaum, der üppige Pflanzenwuchs *mit seinen malerischen Bildungen* sind der Segen und der Stolz des Landes. 草木ならびにその貴重な果実、とくにオリーブ樹、絵に描いたような美しい形をしたもろもろの植物の豊かな繁茂、これがこの国の祝福でもあり、誇りでもあるのである | Er ist von jeglichem wahren Lebensglück ausgeschlossen und zu einer ewig kalten Einsamkeit *samt ihren hysterischen Folgen* verurteilt. 彼はもはやあらゆる真の人生の幸福を見失い、永遠に寒冷なる孤独とそのヒステリカルな結果にとらえられてしまっている

【adverbal 動詞付加的の例文】

Voltaire ist *mit seiner historischen Kontrolle* ganz unleidlich. Wenn er doch lieber die Data in seiner allgemeinen Weltgeschichte dafür verifizieren wollte! (Lessing) ヴォルテール氏の歴史に関するお目付役ぶりだけは閉口である。それよりはむしろご自身の世界史の基礎をなしている史実がはたして本当に史実であるかどうかをお調べになってはどうかと思う | Das Hauptgebäude glich *mit seinen grünen Läden und weissen Wänden* gewissen Landschlössern, wie man sie in Frankreich findet. 母屋の方は、窓が緑色、壁が真白で、まるでフランスあたりのいなか屋敷のようであった | Der Streik, der ihm bisher eigentlich immer noch *mit all seiner Begeisterung, seinen Fahnen und Siegesfeiern* als etwas sehr Lustiges erschienen war, zeigte ihm zum erstenmal sein ernstes Angesicht. ストライキというやつは、非常に気持ちが興奮して旗を立てたり勝利を祝ったりして、とにかくまだ彼にとっては正直なところ何かこう非常に面白いものであるかのように思われていたのであったが、彼はこの時ついにその真剣な一面を正視させられたのであった | Wenn man die Geschichte der Menschheit betrachtet, so ist sie keine logische Entwicklung, wohl aber erinnert sie *mit ihren plötzlichen Eingebungen*, deren Sinn sich erst nachträglich herausstellt, viel eher an ein dichterisches Erzeugnis. 人類史を観察すると、それは決して理路整然たる進展ではなく、時々だしぬけにパッと何か思いつく、そしてその意義がかなり後になって遅ればせにわかってくる、といったような点は、むしろ文学作品を想わせるものがある

♥ 「代名詞につく場合」は、多少の異例はあるが、なるべく adverbial に扱うべきである。また代名詞の場合は特に訳し方に注意すること。さもないと mit の勢いが現れない。

Er ist ein ehrlicher Kauz, aber doch im Grunde ein dummer Teufel *mit seinen ewigen Menschheitsideen*. (seinen は Teufel ではなく、文頭の Er を受ける) あいつは、もちろん誠実ないい人間なんだけど、あいつまでも人間性理念がどうのこうのとばかり言っているところを見ると、本当はどうも少し頭が良くなさそうだ | Sie sind ein seltsamer Mensch *mit Ihrer Mischung von Güte und Leichtsinns*,

von Torheit und Vernunft. (Kotzebue) あなたは、親切なところがあるかと想うとどこか上っ調子だったり、突拍子もないことをなさるかと思うと案外思慮があったりして、実にどうも変わったお方ですな | Er sah *mit seinen festen geraden Beinen und der dunklen Haut* sehr hübsch aus. 彼は脚がシャンとまっすぐで、肌の色が浅黒く、非常に美男子に見えた

- ♥ ただし「間投文」、または多少間投文があった文で、付帯性質を特に強く前面に出そうという際には、代名詞を受ける時でも adnominal に用いることがある。

Darum aber, daß Zweiäuglein nicht anders aussah als andere Menschenkinder, konnten es die Schwestern und die Mutter nicht leiden. Sie sprachen zu ihm: “Du *mit deinen zwei Augen* bist nicht besser als das gemeine Volk, du gehörst nicht zu uns. (Grimm) ふたつ目坊は様子が普通の人間とちっとも違わないので、姉妹たちや母は大変きらいまして、彼女に向かって申しますには、『お前はふたつ目で世間の有象無象とちっとも違わない、お前はうちの子じゃない』 | Aus meinen Augen, du *mit dem Menschengesicht!* (Schiller) その方の人間面など面白うもないわ、すさりおろう！

- ♥ 前項からもわかる通り、この mit を強調して用いると、軽蔑、反感、憎悪、滑稽化、または憧憬その他の「感情」を表現することになる。したがってこれは、相手の言葉を反発的に引用して反感を表現する「② 反発の mit」につながる。

Ach! diese Ueberfahrt von Marseille nach Buenos Aires *mit ihren Stunden Arbeit* im Kohlenlager! いやどうも実に、石炭庫の中で時間ぎめで働かせられるこのマルセイユ・ブエノスアイレス間の航海というやつにはまったく閉口したよ！

- ♥ 以下は単に並立関係をあらわす場合である。これと「性格描写の in」との間、また und を用いる場合との間には、はっきりした境界は存在しない。

Die Laboratorien *mit ihren Zyklotrons und Synchrotrons* 実験所ならびにそのサイクロトロンやシンクロトロン | Der Stierkampf *mit allen seinen Grausamkeiten* 闘牛とそのあらゆる残虐 | Der Saturn *mit seinem Ring* 土星とその輪 | Eine Millionenstadt *mit ihren buntfarbigen Neonlichtern* 大都市とその色とりどりのネオンサイン | Die Grammatik *mit allen ihren Regeln* 文法とその諸種の規則

【ドイツ語前置詞の研究: S. 45-56; 冠詞 I: S. 234-235, 333; 独作文教程: S. 425-427; 文例集 (29) 前置詞: S. 993-1003; 文例集 (73) M-T: S. 161-162, 164-169, 188; 文例集 (56) 文章論一般: S. 14】

② 反発の mit

- 一語一句に反発し、これに反抗してオウム返しに繰り返す場合、また必ずしも相手はその言葉を口に出さなくても、反感、軽蔑、嘲笑などを反射的に表現する場合は、「反発の mit」を用いる。

“Ich bin ganz Ihrer Meinung, aber ...” – “Bleiben Sie mir vom Leibe *mit Ihrem Aber!*” 『私は勿論あなたのお考えに賛成なんです、しかし...』 – 『しかしもへったくれもないじゃないですか!』 | Moser: “Fühlt ihr die Last der Wahrheit so früh? Ich habe ja noch nichts von Beweisen gesagt. Laßt mich nur erst zu den Beweisen ...” Franz: “Schweig, geh’ in die Hölle *mit deinen Beweisen!*” (Schiller) モーゼル:『真理の重圧がもうそんなに早く威力を発揮しはじめましたか? 私はまだ証明を申し上げてはいないので。ではいよいよ証明を...』 フランツ:『黙れ! 証明なんて聴く耳持たぬ!』 | Er nimmt – er nimmt sie an? Er nimmt sie wirklich an? Was das für ein dienstwilliger Mensch ist, der Buchjäger! Und Sie dazu – *mit Ihrer Eile!* (O. Ludwig) お受けする? 就任するというのか? ほんとに就任するのか? おそろしく素直な奴だなあ、Buchjäger という奴は! それに、あんたもあんただよ – そんなあわてた真似をするからいけないんだ! | FÖRSTER: ... Ich bin in meinem Recht und will’s behaupten. – WILKENS: In Seinem Recht? Hm. Was will Er mit dem Recht? Recht kostet Geld. Recht ist ein Spielzeug für die Reichen wie Pferde und Wagen. Hm. *Mit Seinem Recht und Unrecht da.* Sein Recht, das ist Sein Eigensinn; Er reißt noch Frau und Kindern die Kleider vom Leibe, damit Er nur Seinen Eigensinn warm halten kann. (O. Ludwig) FÖRSTER: ... わしの言分は正しいんだ、正しいから通して見せる。 – WILKENS: 正しい? ははあ。正しいからどうしようってんです。ただじゃ正しい事は通りませんぜ。正しいなんてのは、馬や車みたいなもので、金のある人間の贅沢品ですよ。いやはや、正しいの正しくないのって! あなたの正しいと仰言るのは、あなたの片意地ですよ。そんな事を云っていると、今に、なんですぞ、妻子を路頭に迷わせますよ。それでも片意地を通した方が好いですか | BERTHA: Ist er zerschmettert? Ren-net, rettet, helft! – / Wenn Hilfe möglich, rettet, hier ist Gold – MEISTER: *Mit eurem Golde* – Alles ist euch feil / Um Gold; (Schiller) BERTHA: 怪我をしましたか? はやく何とかしてあげてください! 何とかできるものなら、お金はここにありますが! – MEISTER: お金も糞もねえもんだ! お金さえ出しゃ何でも出来ると思ってやがる。 | MARINELLI: Und Emilia bleibt Ihnen ja wohl gewiß. – APPIANI: Ja wohl gewiß? – Sie sind *mit Ihrem Ja wohl* – ja wohl ein ganzer Affe! (Lessing) MAR.: それにエミリアさんの方はまあ絶対にたしかですしね。 – APP.: 絶対にたしか? – 何が絶対にたしかだ。あなたこそ絶対に馬鹿野郎だ! | MARINELLI: [...] Hier ist es durch das Mißbündnis, welches er trifft, mit ihm doch aus. Der Zirkel der ersten Häuser ist ihm von nun an verschlossen. – DER PRINZ: *Mit euern ersten Häusern!* – in welchen das Zeremoniell, der Zwang, die Langeweile und nicht selten die Dürftigkeit herrscht. (Lessing) MAR.: [...] こうなると、こんな下手な縁組みをしました以上は、あの男ももう運の尽きと申すの外ありません。もう一流の社会へ顔出しすることはできません。 – PRINZ: 一流の社会だと? – 一流の社会って何だ。儀式づくめの、窮屈な、退屈な、そして時には万事不如意の社会のことか | LOMELLIN: Gnädiger Herr! das einzige Kind des starrköpfigsten Republikaners! – GIANETTINO: Geh’ in die Hölle *mit deinem Republikaner!* (Schiller) LOM.: でも殿様! 共和党内でも最も頑固な男の一人娘でございますよ。 – GIA.: 共和党内のなんのと、聞きたくもない! | GIULIO: ... Und scheltet mir den Kutscher nicht zu sehr! / Ein Rad zerbricht ja leicht. wer sieht’s voraus? /

Rollt doch das große Rad der Zeit mitunter / So holpricht, daß man glauben möcht', es wäre / Zerbrochen. — MICHEL : Ihr, **mit Eurem Rad der Zeit!** (A. Oehlschläger) GIULIO: そうまあ駆者を悪く仰言いますな。車輪というやつはこわれ勝ちです。はじめからはわかりません。所謂る“時代の竜車”というやつにしてからが、時とすると、まるで壊れたような廻りかたをすることがあるじゃございませんか。 — MICHEL: こら、好い加減にしろ。時代の竜車が何の関係がある

♥ この mit は、あるいは「⑩ 伏在主語の mit」と関係するのではないかと考えられそうであるが、語法としてはむしろ「① 付帯描写の mit」に近いものである。最後の例を完全な文にするとすれば、次のようになる。

Verschont mich **mit** Eurem Rad der Zeit! / Ach, hört doch **mit** ... auf! / Nun Schluß **mit** ...! / Laßt mich **mit** ... ungeschoren (zufrieden, in Ruhe, aus dem Spiel)! / Bleibt mir **mit** ... vom Leibe! / Kommt mir nicht **mit** ...! / Haltet den Mund **mit** ...! / Ach geht mir [ab] **mit** ...! / Pakt Euch zum Henker (Teufel, Kuckuck usw.) **mit** ...! などなど

♥ 「① 付帯描写の mit」同様、mit の次の名詞には原則として物主冠詞が用いられる。

【ドイツ語前置詞の研究 : S. 55-56; 冠詞 I: S. 332-333, III: S. 130, 138-141, 150; 著作集別巻 : S. 225-231; 文例集 (29) 前置詞 : S. 890-897; 文例集 (73) M-T: S. 281】

③ 保有描写の mit

● ギリシャ神話で有名な「百眼の巨人アルゴス」は *der hundertäugige Argus* であるが、これは *Argus mit hundert Augen* とも言う。この mit を使った型に共通な点は *hundert Augen tragen* 「百の眼を持つ」という意味関係で、*tragen* 「保有する、帯びる」という動詞を考えさせるから、「保有描写の mit」と呼ぶ。

Ein junger Bursche **mit verbundenem Kopfe** folgte ihm. (Tieck)「頭に包帯を巻いた若い男が彼に続いた」
| Es gibt viele Hauptwörter **mit schwankendem Geschlecht**. 「性の一定しない名詞がたくさんある」
| ”Herr Professor, draußen wartet ein Mann **mit einem großen Schnurrbart!**” — “Sagen Sie ihm, daß ich keinen brauche!” (Die Woche) 「『教授、外に大きな口ひげをした男の方がお待ちです』 — 『私はひげなどいらないと伝えなさい』」
| Eine Kombination aus Hydrazin und Salpetersäure ist ein Treibstoff **mit hoher Explosivkraft**. (Zeitung) 「ヒドラジンと硝酸を混ぜたものは高度の爆発性能を有する燃料となる」
| Ein Mann **mit blassem Gesicht** 蒼白い顔をした男 | Eine Dame **mit sanfter Stimme** やさしい声の婦人 | Ein Spazierstock **mit silbernem Knopf** 銀頭のステッキ | Eine Lampe **mit grünem Schirm** 緑色の傘のついたランプ | Eine Wohnung **mit Gas und elektrischem Licht** ガス電灯つきの住宅 | Eine Klasse **mit zu hoher Schülerzahl** 学生数の多すぎるクラス | Der Wind schwoll stellenweise zu Böen **mit**

Windstärke 10 an. 「風は所によって風力 10 の突風にまでなった」 | Eine kleine Balgerei mit unsern Gegnern ist gerade jetzt vor den Wahlen nützlich; und die Artikel **mit dem Pfeil** geben große Blößen. (G. Freytag) あっちの奴らとちょっと渡り合ってみるということはちょうど選挙を前にひかえた只今としては、これは有益なんだ。とくに、あの矢印の論説ときたらスキだらけだから、たたくと面白いよ | Dort lag eine Kuh tot **mit emporgerectem Bein und geblähem Euter**. (Renn) 向こうの方には牡牛の死骸が、脚を虚空に立て、乳房が水腫れして横たわっていた

♥ 「保有描写の **mit**」の隣接形態である「①付帯描写の **mit**」は、ほとんどの場合、所有冠詞のついた名詞をとまうのに対し、「保有描写の **mit**」は必ずしもそうとは限らない。

♥ **mit** の後の名詞が「事」型名詞、たとえば動作名詞の場合は、「保有描写の **mit**」は「性質描写の **von**」と大した相違はないので、冠詞を取らないのがふつうである。たとえば「致命傷」は、eine Körperverletzung **mit** tödlichem Ausgang となる（「性質描写の **von**」を使えば eine Körperverletzung **von** tödlichem Ausgang）。その理由は、これがもはや eine tödlich **ausgehende** Körperverletzung のことで、Ausgang という名詞が名詞性を固守しなければならない理由がないからである。

♥ 「保有描写の **mit**」は「分類の 2 格（範疇規定の 2 格）」とも関係してくる。
ein Buch **mit bolschewistischem Inhalt** 「赤い内容の本」 = ein Buch **roten Inhalts**

♥ 「保有描写の **mit**」は、衣類、持ち物その他の場合には「着用装身の **in**」によっても表現される。
Eine Dame **im Grün** | ein Mann **in groben Stiefeln** | ein Herr **in Hut und Stock** | Männer **in Hemdärmeln** 上着を脱いだ姿の男たち | ein Greis **in grauem Vollbart**

♥ **tragen** 「保有」の意味は、ドイツ語では **-ig** という形容詞語尾で表現できる。この **-ig** そのものはなほだ奇妙な現象で、英語は必ず過去分詞形（ausgestattet mit ... の意）で表現するのに、ドイツ語は純形容詞形による。

warmherzig – warm-hearted, dunkeläugig – dark-eyed, hohlwangig – hollow-cheeked, barfüßig – barefooted, scharfsichtig – sharp-sighted など。昔はドイツ語には **-bar** という「保有」を表現する語尾があったが、今は fruchtbar, furchtbar, zinsbar, ruchtbar, wunderbar, ehrbar, klagbar などに痕跡をとどめているに過ぎない。

【冠詞 II: S. 18-23; 文例集 (73) M-T: S. 50-51, 52-69】

④ 従事対象の **mit**

Schnell fertig ist die Jugend **mit dem Wort**, / Das schwer sich handhabt, wie des Messers Schneide. (Schiller)
とかく若い者というものは、そういうことを軽率に言つてのけるが、言葉というものは鋭利な刃の

ようなもので、やたらに振り回すとあぶないぞ | Ihr seid kurz ab **mit Worten**, Herr Abgesandter, das frommt bei solchem Handeln nicht, wie Ihr mit mir begehrt. (G. Freytag) お使いの方,あなたはまるで木で鼻をくくったような言葉つきじゃが,御用件に照らしてみても,それはちと御損ではござるまいか

♥ 「**従事対象の mit**」は一部「**従事方面の in**」と合致する。以下の例はすべて in または im で言い換えても同じである。

vorsichtig **mit dem Versprechen** 約束の点では慎重 | Er geht **mit seinem Argwohn** doch zu weit. それは邪推の行き過ぎだ | **Mit dem Rätsellösen** habe ich selten Glück. 謎を解く方は不得手です | **Mit allem** weiß sie Bescheid. 何だって彼女は心得たものだ | **Mit dem Versprechen** solltest du vorsichtiger sein. 約束はむやみにしない方が利口だよ | Sie hielt **mit dem Schreiben** ein. 彼女はふと書く手をとめた | Sie blickte nicht einmal auf und fuhr **mit dem Stricken** fort. 彼女は目も上げず,相変わらず編み物をしていた | **Mit dem Dichten** wirst du es nie zu etwas bringen. 詩の方は,おまえなんかいくら作ってもだめだ

♥ mit は特に,「勢い込んで軽率に取りかかる」とか,「待っていましたがとばかり着手する」とか,「やりすぎる」とか,あるいはぜんぜんその正反対の従事法に対する表現に(「**従事方面の in**」よりも)好んで用いられる。

behend **mit der Zunge** 黙って引っ込んではいない | tapfer **mit Worten** 大きな口をきく | **mit der Kritik** rasch zur Hand sein すぐに批評したがる | positiv **mit seinem Denken** sein 考え方が積極的である | verschwenderisch **mit Komplimenten** sein 惜しげもなくお世辞をふりまく | karg **mit dem Lob** sein 容易なことではほめない | **mit der Antwort** träge sein 返事を渋る

♥ 「**従事対象の mit**」も,「**従事方面の in**」と同様「不定形名詞」と結合することが多い。

♥ 「**従事対象の mit**」が形容詞に支配される場合は「**見地の von**」に一致することが多い。もし von で表現するとすると続く名詞は必ず無冠詞となる。

behend **mit der Zunge** = behend **von Zunge**

【冠詞 I: S. 793, 954, 968】

⑤ 同時性を表現する mit, 即時開始的同時過程の mit

In Österreich kam **mit Joseph II.** ein Aufklärer auf den katholischen Thron. オーストリアでは Joseph 二世という啓蒙運動者がカトリック国の王位を継承した | **Mit versiegtem Geld** ist auch die Freundschaft zu Ende. 金の切れ目が縁の切れ目 | **Mit den "guten Bürgern"** verkommt auch der gute Staat und löst sich in Anarchie und Gesetzlosigkeit auf. (M. Stirner) 『『良き市民』が現れると,良き国家は荒廃し,無政府状態,無法状態に陥るのである』 | **Mit vierunddreißig** war unsere Großmutter schon Großmutter.

(von Hollander) 「うちのおばあちゃんは 34 歳でもうおばあちゃんだったの」 | Alterserscheinungen beginnen bei den meisten *mit dem fünfzigsten Lebensjahre*. 「老化現象は、大部分の人たちの場合 50 歳で始まる」 | Nur *mit sinkender Nacht* kam der Zug im Dorf vor dem Wirtshause an. (Goethe) 「夜のとばりが降りるころにやっと、一行は村の旅館の前に到着した」 | *Mit einbrechender Finsternis* kam er in die Nähe der Stadt. 「暗くなるころに彼は町の近くにやってきた」

♥ 「同時性を表現する mit」は、「同一視の in」、「同一視の an」と同じく用いられることがある。上の最初の例文は、「同一視の in」を使って次のように言うこともできる。

In Österreich kam **in Joseph II.** ein Aufklärer auf den katholischen Thron.

【冠詞 I: S. 489, 814-815; 文例集 (73) M-T: S. 178-187, 188-189, 196】

⑥ 比例的同時過程の mit (... とともに増す)

Der Siedepunkt erhöht sich *mit vermehrtem äußerem Druck*. 「沸点は気圧が上がるとともに上昇する」 | Das Lösungsvermögen wächst meist *mit der Temperatur*. 「溶解能力はたいていの場合、温度とともに上昇する」 | Der Wein gewinnt *mit dem Alter* an Geschmack und Kraft. 「ワインは、年とともに味と濃密さを増す」 | Die Welt wird *mit jedem Glas* schöner. 「この世は一杯飲むたびに楽しくなっていくのさ」 | *Mit dem vorrückenden Abend* wurde das Gespräch immer lebhafter. 「宵が深まるほどに話はますます花が咲いていった」

【冠詞 I: S. 814-815; 文例集 (73) M-T: S. 194-195】

⑦ 相手の mit

Was er tut, steht *mit dem*, was er sagt, im Widerspruch. 「彼はすることとすることが矛盾している」 | Was er will, steht *mit dem*, was er kann, im Widerstreit. 「彼はやりたいことと出来ることが相対立しちやっっている」 | Die beiden Kräfte stehen *miteinander* im Gleichgewicht. 「双方の兵力は拮抗している」 | Alle Parteien stehen *miteinander* im Antagonismus. 「党はみな互いに敵対関係にある」 | Der Mensch steht *mit den Naturkräften* im Kampf. 「人間は自然力と戦っているのである」 | Die Polizei liegt *mit den Rauschgifthändlern* im Krieg. 「警察は麻薬取引人たちと戦っている」 | Seit Jahren liegen wir *mit unserem Nachbar* im Prozeß. 「私たちは何年も前から隣人と係争中です」 | Seine Taten stehen *mit seinen Worten* im Einklang. 「彼は行動と言葉が一致している」 | Der Verräter steht *mit unserem Todfeind* im Bündnis. 「裏切り者は我々の宿敵と手を結んでいるのだ」 | Meine Bedienten waren im Einverständnis *miteinander*. 「私の召使いたちは互いに合意していた」 | Geschäftsfreunde müssen *miteinander* im/in Kontakt bleiben. 「仕事上の仲間は互いに連絡し合っていないと行かない」 | Ich stehe *mit meinen*

Freunden in Amerika im/in Briefwechsel. 「私はアメリカの友人たちと文通しています」 | Die freien Völker stehen eins **mit dem andern** im/in Verkehr. 「自由な民族は他の民族とひとつになって交流する」 | Die Vorhut liegt **mit den feindlichen Truppen** schon im Gefecht. 「前衛はすでに敵軍と戦闘中である」 | Für ihn steht alles **mit den Atomexplosionen** im/in Zusammenhang. 「彼にはすべてのことが原子爆発と関係がある」 | Wir liegen **mit unsern Arbeitgebern** im/in Streik. 「私たちは雇用者に対してストを張っています」 | **Mit dem griechischen Alphabet** scheint er nun einmal auf Kriegsfuß zu stehen. 「彼はどうもギリシャ語のアルファベットと敵対関係にあるらしい」 | Und der Erfolg ist, daß Gisela auch **mit fremden Menschen** großartig zurechtkommt. (Zeitung) 「そして成果はというと, Gisela が見知らぬ人とも素晴らしくうまくやっていけるようになったということだ」 | Ich habe **mit ihm** noch ein Hühnchen zu rupfen. (DUDEN) 「私は彼にまだひとつ文句を言ってやらなければならない」

♥ 冠詞の観点から: 「抗争」, 「親睦」, 「齟齬」, 「一致」のいかんを問わず, 一般に「相手の mit」をともなう以下の名詞との結合をひとつの「意味の型 (意味形態)」と見るならば, それらの名詞の冠詞は, 女性は無冠詞 (あるいは不定冠詞), 男性と中性は原則として定冠詞を温存する。ただし数個の例外がとかく落脱の傾向を示す (Verkehr, Briefwechsel, Streik, Streit など。他は程度問題)。
Verkehr, Briefwechsel, Verhältnis, Proportion, Beziehung, Streit, Kampf, Krieg, Gefecht, Streik, Prozeß, Scheidung, Ehescheidung, Einklang, Harmonie, Einverständnis, Einvernehmen, Bündnis, Widerstreit, Widerspruch, Korrelation, Zusammenhang, Wechselwirkung, Berührung, Fühlung, Antagonismus, Konkurrenz, Spannung, Auseinandersetzung

【冠詞 I: S. 852-853; 文例集 (29) 前置詞: S. 904-905, 917-937, 953; 文例集 (73) M-T: S. 326-327】

⑧ 当事局部の mit

mit dem Kopf herausgucken 「頭がのぞいている」 | Dieser Ungar heißt **mit Vornamen** Ladieslaus. 「このハンガリー人は名前を Ladieslaus という」 | Ich habe mich **mit dem Kopf** an die Tischkante gestoßen. (Vergnügliches Handbuch der deutschen Sprache) 「私は頭を机のかどにぶつけました」 | Er steht **mit einem Bein** im Grabe. (DUDEN) 「やつは棺桶に片足をつっこんでいる」 | Das versenkte Schiff ragt nur noch **mit den Mastenspitzen und dem Schornstein** aus dem Wasser. 「沈没した船はもはやマストの先と煙突が水面から顔を出しているだけだった」 | Wie er so neben ihr saß, lehnte sein Gesicht an ihrer Schulter und sie ragte **mit dem ganzen Kopfe** über ihn weg. (Aus dem Regen in die Traufe) 「彼が彼女の隣りにすわり, 顔を肩にもたれさせると, 彼女の顔はまるまる上に突き出ることとなってしまった」 | Nur sechs oder acht Herren waren alles in allem in den zwei hinteren Klubzimmern, die **mit ihrer Schmalseite** nach einem sonnigen und ziemlich langweiligen Garten hinaussahen, versammelt. (Th. Fontane) 「結局 6, 7 人の紳士たちが奥の二つの部屋に集まっていただけだった。このクラブ部屋は奥行きが, 陽のあたるあ

まり面白くもない庭に面していた」 | JURA: ... Und Sie sind ja ganz gescheit! – MARIE: Glauben Sie? – JURA: (sieht ihr fest ins Gesicht) Sieht man doch! Nämlich nicht *mit dem Kopfe* gescheit, das nutzt doch auch nichts. Sondern man muß wie ein Hund gescheit sein, *mit der Nase*.「JURA: ...あなたは本当に賢くいらっしゃいますね。 – MARIE: そうお思いですか? – JURA: (相手の顔をじっと見て) お見かけすればわかります。でもおつむが賢いではありません。そんなことは何の役にも立ちませんものね。そうじゃなくて、私たちは犬のように賢くなければならないんですよ、鼻ですね。」 | Geiger schien *mit seinen Gedanken* woanders. (K. A. Schenzinger) 「Geiger は心ここにあらずの様子だった」

【冠詞 I: S. 954; 文例集 (73) M-T: S. 222-233】

⑨ 手段, Instrumentalis

● ふつうの mit: 「...をもって」。

Wir können bei der Größe des Objektes die Beobachtung *mit bloßem Auge* oder *mit einer schwachen Lupe* machen. (M. Verworn) 「この物体の大きさでは、裸眼か弱いルーペで観察が可能である」 | Das Chamäleon fängt Fliegen *mit der Zunge*.「カメレオンはハエを舌でつかまえる」 | Ich nähe *mit der Nadel*. 「針で縫う」 | Ich schneide *mit der Schere*. 「はさみで切る」 | Ich zähle *mit dem Finger*. 「指を使って数える」 | Ich zeige *mit dem Finger*. 「指で指し示す」 | Denjenigen, die sich *mit Ellbogenkraft* durchboxen wollen, wird von den Artgenossen unmißverständlich Ordnung beigebracht. (Zeitung) 「腕力で乗り切ろうとする者たちには、仲間から誤解する余地のない形で規律がたたき込まれる」 | Was ist *mit diesem Rätselwort* gemeint? (Goethe) 「この謎はいかなる意味かな?」 | *Mit dieser Bemerkung* hat er den Nagel auf den Kopf getroffen.「そのコメントによって彼は急所をついた」 | Was ist *damit* erreicht? それは何ほどの成功だろう | Bescheidenheit und Anspruchslosigkeit sind gewiß höchst löbliche Tugenden. Es fragt sich nur, wie weit man *damit* in der heutigen Welt kommt. Zum wenigsten ist man arg enttäuscht, wenn man sich von diesen Tugenden irgend einen Lohn verspricht. 謙遜ということはなるほど結構なことに相違ない。しかし当今の世の中がはたしてそんなことで渡って行かれるかどうかはちょっと問題だ。少なくとも謙遜によって何等かの報酬が期待されると思ったら大変な間違いである | *Mit diesem Geständnis* haben Sie das ganze Gebäude Ihrer bisherigen Behauptung selbst wieder dem Erdboden gleich gemacht und die Sache steht, wo sie zu Anfang unserer Diskussion gestanden hat. あなたはその告白によってせっかく今まで主張しておいでになった事柄を全部自分でぶっ壊しておしまいになったようなもので、問題はまた本日の最初の出発点へ逆戻りしてしまいました

【文例集 (73) M-T: S. 14-18, 203-210; 独作文教程 : S. 508-510】

⑩ 主体を表わす **mit**, 伏在主語の **mit**

- Es weht der Wind. など, いわゆる「文の非人称化」においては, 意味上の主語は 1 格にして入れるが, Es geht rückwärts. など, いわゆる「非人称熟語」においては, 「意味上の主語」は **mit** をともなう随伴的位置に置かれる。これは熟語とは言えない場合も同様である。

Es nimmt kein Ende mit der Krise. 不景気はなかなかやみそうにない | *Ich bin gekündigt, es ist aus mit mir.* 俺は解雇された, 俺はもうおしまいだ | *So weit ist es mit uns* doch nicht gekommen. 俺たちだってまさかそんなに落ちぶれたわけじゃない | *Wie steht es denn mit deinem herrlichen Plan?* お前の素晴らしい計画はいったいどうなったんだい? | *Mit seinen Sprachkenntnissen* ist es natürlich nicht so weit her. あいつの語学の知識なんて, もちろん大したものじゃない | *Es ist vorbei mit ihm,* er ist hinüber. (Schiller) かれがこと終わりぬ。かれ今や亡し | *Soll es endlich ernst damit* werden? ではいよいよ本当にそうするつもりなのか? | *Wie ist es eigentlich mit deiner Heirat* zugegangen? 君の結婚は, あれはいったいどうしたいきさつだったのかね | *Es geschieht immer etwas mit einem,* solange man hienieden wandelt. この世に生きている限りは, 何か事が起こるとしたものだ | *Sie wollte nur zeigen, daß es mit ihrer Drohung* ernst gemeint ist. 彼女はただ, 自分の脅し文句が本気だということを見せようとしたにすぎなかった | *Aber sie hatte nicht gedacht, daß es eine solche Wendung mit der Sache* nehmen würde. けれどもまさかこういう風な風向きになってこようとは夢にも思わなかったのであった | *Und wie wird's sein mit den Zinsen?* ところで御利息の方はいかが相成りまするでございましょうか | *Es ist mit der Erziehung der Kinder* wie z. B. *mit dem Forstwesen.* 子供を育つるは, たとえば植林事業のごとし | *Mit diesem Ringe* hat es seine eigene Bewandtnis. この指輪にはちょっとわけがあるんでね | *Man sieht, wie mißlich es mit der sogenannten Wissenschaft* aussieht. いわゆる学問というものがどんなに情けない状態にあるかは, これをもっても解るでしょう | *Ich weiß nicht, wie es sich mit der heutigen Innenpolitik* verhält. 現今の国内政策がどういう風なことになっているのか, 私にはわからない | *Mit deiner Frau* hat es nicht seine Richtigkeit. 君の細君は少しどうかしているぜ | *Diese Leute glauben, daß, wenn es nur mit ihrem Geldbeutel* wohl gehe, es auch *mit dem Glücke der Gesellschaft* wohl bestellt sei. こういう人たちというものは, 自分の財布の都合さえよければ社会の幸福も申し分なしだと思っている | *Mit meiner Erbschaft* wird es kläglich genug ausfallen, denn ich habe erfahren, daß mein Vater arm wie eine Kirchenmaus ist. おれの遺産は大したことにはなりそうにもない。というのは, 聞いたところによると, 親父のやつめ, とても貧乏なんだそうだから | *Es sah zwischen den beiden Männern nach einem Zank* aus, indessen hatte es *damit* nicht viel zu bedeuten. 両人は一時はちょっとケンカでもしそうな様子に見えたが, しかし, まあ別に大したことなかったらしい | *Mit seinem Lieben* läuft es am Ende auf lauter Spielerei hinaus. あいつの恋愛は, 結局は要するに単なる戯れにおちいってしまうんだ | *Wie es auch mit seiner Philosophie* beschaffen sein mag, berühmt ist er doch geworden, das ist wahr. あいつの哲学はまあどんなものか知らないが, 名高くは確かに

なったね、いやまったく | Eine ganz andere Beschaffenheit hatte *es* aber **mit seinem Privatleben**. ところで、彼の私生活となると、こいつはもうすっかり別物であった | Er paßte nicht in diese Zeit. Diese Zeit war das Deutschland nach dem Weltkriege. **Mit jedem Menschen**, der harmlos und heiter war, ging *es* bergab. 彼は時代に適しなかった。時代というのは、つまり大戦後のドイツである。この時代には、いやしくも天真爛漫な、快活な性質を持っていた人間はみんな落ちぶれたものだ | Von all den großen Verheißungen, mit denen dieser die Seinen in den Kampf um die Präsidentschaft geführt hat, ist nur sehr wenig übriggeblieben. *Es* ist nichts **mit der 15-Millionen-Partei**, nichts **mit dem sicheren Ende der Inflation**, nichts **mit der Agrarreform**. 自分の徒党を大統領選にかり出すに際して、この男が標語として彼らに約束したところの多くの誇大な宣伝項目は今や目もあてられないことになってしまった。『千五百万の党員を擁する大政党』もお流れ、『インフレの終息日を期して待つべし』もおじゃん、『農地改革』もペシャンコ | Aber sieh, Distelkampff, vom gegenwärtigen Standpunkt unseres Wissens, oder sag' ich auch bloß unseres Geschmacks aus, darf doch am Ende gesagt werden, *es* war etwas Furchtbares **mit dieser Perückengelehrsamkeit**, und die stupende Wichtigkeit, mit der sie sich gab, kann uns nur noch erheitern. (Th. Fontane) だが、何だぜ、Distelkampff 君、吾人の知識の現在の立場から見るとだね、いや、たとえば吾人の趣味のと言ったところで同じことだ — いったいこの王朝時代の学識というやつは、考えて見るに、たまらない代物とでも言うよりほかに言い方がないね。しかもその、お人好くもったいぶった大風呂敷のひろげ方と来た日には、何てことはない、噴飯ものだよ | *Das* ist was Schreckliches **mit dem Gelehrten**, daß sie so neidisch aufeinander sind, und daß nie einer dem andern seine Gelehrsamkeit gönnt. (Holberg, Übers. Robert Prutz) 学者なんて、ずいぶんおっかない代物ですね。お互い同志、ひどく妬み合って、人様の博学は絶対にゆるさないじゃありませんか | Lieber Freund, **mit den schönen Redensarten** von voller Gleichberechtigung und vom Recht der Majoritäten ist's eine eigene Sache. Sie sind absurd, wie alles in der Welt, was unbedingt gelten will. (Hamerling) いや君、権利平等、多数決なんて言うと、ひどく人聞きがいいが、実はどうもこれはチョットむつかしい問題でね。およそ世の中の事というものは、あんまりかつぎ上げてしまうとみんなそういう事になるものだが、これも御多分に洩れずトンチンカンな思想なんだよ | “Die Heimat ... die möchtest du wiedersehen? Das möchte ich auch, Fiete, und wer möchte das nicht? *Das* ist eine seltsame Sache **mit der Heimat**, Fiete. Es wäre kein Krieg, wenn keine Heimat wäre. Weil wir die Heimat lieben, müssen wir auch für sie sterben können, mein Junge!” (Küchler) “故国 故国へ帰りたいんだって? そりゃあ私だって帰りたいさ、Fiete 君。故国へ帰りたくない人間なんていないよ君。ところでその故国というやつが、これがさて相当問題だと思うな。故国というやつがあるから戦争も起る。故国を愛するから、故国のために命を捨てなくちゃならんということになって来るんだぜ、君。” | Schließlich kam es Gastelmeier vor, als wenn *es* **mit dem alten Fräulein** eine noch nicht ausgemachte Sache sei. (Böhlau) Gastelmeier は、いろいろ考えていると、例の老嬢の一件なんて、まだそうははっきり決まった話ではないのじゃないか、という気がしはじめた | “Ja”, fuhr V. nach kurzem Schweigen fort, “ja, *es* ist ein eigenes Ding **mit den Nachtwandlern**.

Andern Tages wissen sie von diesem sonderbaren Zustande, von allem, was sie wie in vollem Wachen begonnen haben, nicht das allermindeste. (Hoffmann) “いやどうも”, と V. はちょっと沈黙を置いて語を継いだ, “いやどうも, 此の, 夢遊病者というやつはまったく変なものでしてね。あくる朝になると, その妙な状態のことも, その時まるで明瞭な意識をもった人間のように振舞ったことも, 全然何一つ覚えていないんです | Nein, knurrte er endlich, 's ist ein Unsinn **mit dem vierten Gebot**. Vater und Mutter ehren — das mögen die tun, deren Väter und Mütter ehrenwert und ehrwürdig sind. (Heyse) “冗談じゃない”, と彼は遂に不平そうに言った, “第四の掟なんて, およそ人を馬鹿にした掟ですよ。父母を敬うなんて — 敬う値打のある偉い父母を持った者なら敬うのも結構でしょうがね。” | Nach meiner Meinung ist es **mit der revolutionären Zukünftigkeit und Morgenrötlichkeit** dieser Tendenzen — der faschistischen, es ist klar, was ich meine — ein fauler Zauber. (Th. Mann) 私の意見をもってするならば, こうした傾向 — ファッションのことです, はっきり言えば — のいわゆる将来性とか黎明性とか何とかいうやつは, 見えすいた手品にすぎません | *Das ist eine ganz blöde Kiste mit meinen Pumps*, sie drücken wie Karl der Große. Das Zeug ist mir einfach zu klein, wie sich herausstellt, von der Härte ganz abgesehen. (Th. Mann) この突っかけ靴ったら, なっていやあしねえ。まるでカルル大帝みたいに人を圧迫しやがって! 買ったから気がついたんだが, ちっちゃすぎるんですよ。それに, イヤにしゃちこばっていやがってね | Ist *das* nicht ein Kreuz **mit den Weibern!** (Iffland) 女どもって奴には, これで苦勞するよ, まったく!

♥ すでに上例にも見られるように, es を das に変え, しかもその das を強く発音すると, 意味は同じでも, es の場合よりは少し俗語めいた, くだけた調子になる。

● es を用いないで, 命令的副詞と使われる場合。

Hinaus **mit dir!** お前なんか表へ出てしまえ! | Auf die Folter **mit dir**, du halsstarriger, verstockter Mönch! (Hoffmann) 「お前なんか拷問台行きだ, この強情でかたくなな坊主め!」 | Ich bin der Herrscher — in die Knie **mit euch!** (Wedekind) 「われは君主だぞ — 頭が高い」

● es を用いないで, 疑問詞と使われる場合。

Was ist **mit dir?** 「君, どうしたの?」

【ドイツ語前置詞の研究: S. 1-9, 15-19; 冠詞 II: S. 351-353; 新ドイツ語文法教程: S. 300-301; 文例集 (29) 前置詞: S. 938, 941-952, 961-992; 文例集 (73) M-T: S. 146-155, 157-158, 197-202】

⑪ 客体を表わす mit

● 意味のない形式的な 4 格の es をともなう熟語において, 本来の目的語を mit の句で表現する。

Ich meine es ehrlich **mit meiner Warnung**. 私は私の警告を正直に考えているのだ; 私の警告は本当

に正直な気持ちから発したものだ | Die Jugendlichen, besonders die männlichen, nehmen *es mit dem Berufswechsel* ganz leicht. 若い人たち, とくに若い男たちは, 職業の転換をごく無造作に考えている | Die Gasheizung ist nicht recht bequem, ich muß *es mal mit der elektrischen* versuchen. ガス暖房はどうもあまり便利ではない。ひとつ試しに電気ストーブでも使ってみようかしら | Diese Leute nehmen *es mit Grobheiten* nicht so genau wie wir Gebildeten. この人たちは, われわれの様なインテリとは違って, 少しひどいことを言ったって大して気にかけない | Er hatte sich, wie er sagte, recht viel Zeit gelassen, um sein Lebenswerk vorzubereiten. Auch *mit seinen kleineren Schriften* hatte er *es* immer so gemacht. 彼の言によれば, 彼はその一代の傑作を準備せんがためにはかなりゆっくりと暇を見積もったという話である。それ以外のちょっとした著述でもやはりみんなそういう風な書き方をしたのだそうだ | Man wartet ja schon ein Stündchen draußen. Macht's kurz *mit eurer Auseinandersetzung!* みんなが表でもう小一時間も待っているんだぜ, 議論なんかもういい加減にして切り上げたまえよ | Er nahm *es mit seiner Aufgabe* kolossal ernst. 「彼は自分に課せられた使命をととても真面目に考えていた」 | Unser Lehrer nimmt *es mit der Aussprache* nicht allzu genau. 「私たちの先生は発音をそれほどうるさくは言わない」 | Er hat *es mit seiner Braut* schlecht getroffen. 「彼は奥さんには運が悪かった」 | Du treibst *es mit dem Propagandamachen* zu toll. 「君は宣伝活動を派手にやりすぎるよ」 | Laß *es* nur gut sein *mit dem Kaffee*, bald ist es Essenszeit. 「コーヒーだけにしておきなさい, もうすぐご飯だから」 | Ich versuchte *es* bald *mit freundlichem Zureden*, bald *mit Drohung*: alles umsonst! 「私はやさしく説き伏せようとしたり, おどそうとしたりしたが, すべては無駄であった」 | Es rächt sich nachher, wenn man *es* sich *mit der Lösung* eines Problems allzu leicht macht. 「問題の解決をかんたんにやりすぎると, あとでひどい目にあうよ」 | Er setzt seinen Ehrgeiz darein, nichts halb zu tun; so hält er *es* sogar *mit dem Trinken*. 「彼は, なにごとも中途半端にしないということに面目をかけている。飲むことさえそうだ」 | Ich habe *es mit meinem Studium* noch nicht so weit gebracht. 「私は自分の研究をそれほど先まで進めているわけではない」

♥ *es* を *das* に変え, しかもその *das* を強く発音すると, 意味は同じでも, *es* の場合よりは少し俗語めいた, くだけた調子になる。

Das haben wir wirklich fein gemacht *mit unserer Außenpolitik!* こんどの外交はまったく大成功じゃないか, ええ?

● 「*es* を使った熟語」でない場合。

mit Steinen werfen 「石を投げる」 | Sie winkt *mit dem Taschentuch*. 「彼女はハンカチを振って合図する」 | *mit den Füßen* strampeln 「足をばたばたさせる」 | Sabine lehnte sich an den Stuhl und nickte mechanisch *mit dem Haupt*. 「ザビーネは椅子にもたれかかり, 首を機械的にたてに振った」 | Ich hielt mich also mäuschenstill und wagte kaum, *mit den Augen* zu zwinkern. (F. Tieß) 「そういうわけで私はそっと静かにしており, まばたきすることさえはばかられた」 | Er empfing die Nachricht, ohne

mit einer Wimper zu zucken. (Duden) 「彼はその知らせを、まつげをピクリとも動かすことなしに受けとった」 | aber hört endlich *mit diesen Jeremiaden* auf! (Immermann) 「もういい加減に泣き言はおやめなさい！」 | aber jetzt war der Arzt *mit seiner Krankenvsichte* doch zu Ende gekommen. (W. Raabe) 「さてこれで医者は、回診を終わらせたのである」 | Er prahlt *mit seinen Heldentaten*. 「彼は自分の英雄的な行為を自慢する」 | Oh, schon gut, wir werden schon *damit* fertig werden. (Zeitung) 「ああ、大丈夫さ、私たちはそれをクリアできるよ」 | Verschone mich *mit dem Zimt!* (Duden) 「そのガラクタは勘弁してくれ」

- es を用いないで、命令的副詞と使われる場合。

Herunter *mit dem Kleid!* 「服を脱げ！」 | Weg *mit den Pickeln* (スキนครームの広告) 「吹き出物をなくしましょう」

- es を用いないで、疑問詞と使われる場合。

Wohin *mit verfügbarem Geld?* (生命保険の広告) 「お手持ちのお金をどちらへ？」 | Frau Reckert, wir wissen nicht, wohin *mit dem Kind*. Wollen Sie das Würmchen nicht wenigstens für einige Tage aufnehmen? (Zeitung) 「Reckert さん、私たちはこの子をどこに連れて行ったらいいのか分からないのです。このかわいそうな子を数日間でいいですから、あずかっていただけませんか」

【ドイツ語前置詞の研究: S. 9-14; 新ドイツ語文法教程: S. 301; 文例集 (29) 前置詞: S. 939-940; 文例集 (73) M-T: S. 146-155, 157-158, 234-277, 282-288】

⑫ 材料の mit

mit etwas begabt sein 「... に恵まれている」 | *mit etwas* bedacht sein 「... が授けられてある」 | *mit etwas* bewaffnet, ausgerüstet sein 「... で武装している」 | sich *mit etwas* versehen 「... を用意する」 | Er hatte sich *mit einem Frühstück* vorgesehen. (Graf zu Bentzel-Sternau) 「彼はあらかじめ朝食を用意しておいた」

【文例集 (73) M-T: S. 324-325】

⑬ 結果の mit

- 「... の結果をともなって」、または 「... の感じをともないつつ」。

Drei hintereinander folgenden Tage machte man dieselben Versuche und immer *mit demselben Erfolg*. (Kleist) 「3日続けて同じ試みを行ったが、同様の結果であった」 | Die Hypnose wird seit langer Zeit von Ärzten zur Heilung nervös erkrankter Personen *mit Erfolg* angewandt. 「医者たちは昔から催眠状態を、精神を

わずらっている人々に応用しているが、成果をおさめてきた」 | Man hat auf dem freien Ozean Messungen angestellt **mit dem Ergebnis**, daß der Kohlensäuregehalt über dem Meer und auf Inseln in Durchschnitt ungefähr 10 % niedriger ist als über Kontinenten. (R. H. Francé) 「大洋上で計測を行い、海上と島での炭酸ガスの量が内地より平均して約 10 パーセント低いという結果を得た」 | Die Bundesregierung muß andererseits **mit schmerzlichem Bedauern** feststellen, daß ... 「連邦政府は一方、非常に遺憾ながら以下のことを確認しなければならない」 | Ich wurde meinen Irrtum **mit Schrecken** gewahr. 「私は誤りに気づいてギョッとした」 | Beide fühlten **mit Wehmut**, wie sie seit dem Tode des Vaters einander allmählich entglitten waren. (Schnitzler) 「二人はお互いが、父が亡くなって以来じょじょに避けるようになったことをもの悲しい気分で感じるのであった」

【文例集 (73) M-T: S. 91-95, 96-97】

⑭ 交渉・従事の mit

sich **mit etwas** beschäftigen, befassen 「... に従事する」 | sich **mit etwas/jemand** abgeben 「... とかわりあう、つき合う」 | sich **mit jemand** einlassen 「... とかわりあう」 | **mit etwas** kurzen Prozeß machen 「... をあっさりと片づける」 | Aber durch sein Rechtsstudium, durch seine Tätigkeit als Anwalt, endlich durch seine Staatsämter ... war er sechzig Jahre lang genötigt, täglich **mit Akten** umzugehen. (E. R. Curtius) 「法律を学んだり、弁護士の仕事をしたり、ついには官職についていたことで、彼は 60 年の間、毎日書類を扱わなければならなかった」 | Über ein Jahr lang wartete sie loyal auf eine Nachricht. Dann fand sie sich allmählich **mit der neuen Lage** ab. (Zeitung) 「一年以上のあいだ彼女は知らせを忠実に待っていたが、徐々に新たな状況に順応していった」 | Er hat früher einmal **mit diesem Posten** geliebäugelt. 「彼は以前にこの地位を得たいとしきりに思った」

▼ 「⑪ 客体を表わす mit」 (logisches Objekt) と同じものである。

【文例集 (29) 前置詞 : S. 906-913】

⑮ 言説引用の mit

● 「誰その言葉通りに」。

Wir unterscheiden **mit Troeltsch** zwei Hauptrichtungen in der modernen Soziologie, die geschichtsphilosophisch-enzyklopädische und die analysierend-formale Richtung. (A. Vierkandt) 「私たちは近代社会学に、Troeltsch の言う二つの主な流れを区別することにしよう。歴史哲学・百科辞典的流れと、分析形態的流れである」 | **Mit Goethe** hätte Gottfried Keller die Lebensgeschichte seines andern Ich, des Heinrich Lee, “Dichtung und Wahrheit” nennen können. (H. Amelung) 「Gottfried Keller は、彼の別の自我 (Heinrich Lee) の伝記

を, Goethe の言葉通りに『詩と真実』と名づけることができたはずだ」 | Man könnte also füglich *mit Salomo* sagen: es gibt nichts Neues unter der Sonne. (Hegel) 「そういうわけでもっともなことなのだが, Salomo のことば通り, 太陽のもと, 新たなものは何ひとつ存在しないと言することができるのである」

【文例集 (29) 前置詞: S. 1006-1008】

⑩ ... と一致する, 比較する

Das ist nur eine Vorstellungsweise, die *mit der Realität der Dinge selbst* nicht notwendig zusammenfällt. 「それは, 物ごとの実際と必ずしも一致するわけではない, 単なるひとつの考え方にすぎない」 | In diesem Stadium seiner Rede fühlte sich der Redner so eins *mit seiner Zuhörerschaft*, daß es eine wahre Freude war. (Raabe) 「演説のこの段階で演者は聴衆と一体と感ずることになったが, それは心からの喜びを与えるものであった」 | Wir gehen *mit Ihnen und Ihrer Forderung* restlos einig. (Zeitung) 「私たちはあなたとまったく同じ意見であり, そしてあなたの要求にも完全に同意いたします」 | Die Adjektiv-Endung kongruiert, sowohl dem Genus wie auch dem Kasus nach, *mit dem Substantiv*. 「形容詞の語尾は, 性も格も名詞と一致する」 | Der Leser wird schon bemerkt haben, in welchem Sinn das Wort Evolutionismus in diesem Werk verwendet wird. Es ist für uns gleichbedeutend *mit Abstammungslehre*. (E. Jung) 「読者は, この本の中で Evolutionismus という言葉がどういう意味で使われているか, もうすでにお気づきのことと思う。これは Abstammungslehre と同義なのである」 | Wenn in der Biologie von “lebender Substanz” gesprochen wird, so ist der Begriff Substanz hier nicht *mit dem philosophischen Sprachgebrauch* gleichzusetzen. 「生物学において lebender Substanz という時には, この Substanz という概念は哲学上の用法とは同一ではない」 | Man hat die Gegenwart *mit der Zeit des untergehenden Altertums* verglichen. (K. Jaspers) 「現在が沈み行くいにしへの時代と比較された」 | *Mit dir* verglichen zeigt der Stein sich milde. (Goethe) 「君と比較されては石も柔らに見えてくる」

【文例集 (73) M-T: S. 114-124】

⑪ 転化終結の mit

mit etwas enden 「... で終わる」 | *mit etwas* schließen 「... で終える, 終わる」

【文例集 (73) M-T: S. 193】

⑫ 数量, 程度と

Die Temperatur der Sonnenoberfläche nimmt man heute *mit 6000 °C* an. (A. Berliner) 「太陽の表面の温度は, 今日 6000 度と推定されている」 | In der Rechnung sind die Kosten für das Legen der Leitung *mit*

160 Mark angegeben. 「請求書にはガス管理設の料金は 160 マルクとなっている」 | Die Reichweite des Geschützes wird **mit 32 km** angegeben. 「大砲の射程距離は 32 キロと言われる」 | Die Gesamtdauer der Mars Expedition errechnete Wernher von Braun **mit 2 Jahren und 239 Tagen**. (Zeitung) 「Wernher von Braun は、火星探査が必要とする総時間を 2 年と 239 日と算出した」

【文例集 (73) M-T: S. 4-7】

⑱ 交通機関の mit

mit der Eisenbahn fahren 「鉄道で行く」 | **Mit dem nächsten Zug** fuhr sie wieder nach Hamburg zurück. (Zeitung) 「次の列車で彼女は再びハンブルクにもどった」 | Nun gestehe endlich: wo hast du die Else versteckt, **mit der** du verreisen willst, du Treuloser! (Zeitung) (die Else が船の名前である笑い話) 「さあ、お言いなさいよ、一緒に旅行するつもりの Else をどこにかくしたの、この薄情者！」

【佐藤: これは「⑨ 手段」と一致する】

【文例集 (73) M-T: S. 26-27】

⑳ 体の一部分, または装着品などと

Der künstliche Satellit wurde in den frühen Morgenstunden in der australischen Stadt Sidney **mit bloßem Auge** beobachtet. 「人工衛星は朝の早い時間にオーストラリアの町シドニーで肉眼で観察された」 | Sabine blickte **mit leuchtenden Augen** auf Anton. (Soll und Haben) 「Sabine は輝く目で Anton を見やった」 | Veitel stand starr, sein strahlendes Gesicht wurde sehr ernst, **mit offenem Munde** sah er auf den schwarzen Mann im Sopha. (ibidem) 「Veitel は固くなって立っていた。その輝く顔は真剣になり、口を開けたままソファーに座っている黒々とした男を見た」 | Langsam und **mit gesenktem Haupt** ging er den verfallenen Kreuzgang hinab. (ibidem) 「ゆっくりとそして頭をたれて、彼は荒れ果てた回廊を去っていった」 | Er ist brav geworden, das hoffe ich jetzt **mit ganzem Herzen**. (ibidem) 「彼はまじめになった、今は心からそう望むよ」 | Er schläft gleich einem Hasen **mit offenen Augen**. (nach Raabe) 「彼はウサギのように目をあけたままで眠る」 | "Du bist töricht," antwortete die Baronin **mit ruhiger Stimme**. (Soll und Haben) 「『あなたは馬鹿よ』と男爵夫人は静かな声で答えた」

【佐藤: これは「② 保有描写」, 「⑨ 手段」と一致する】

【文例集 (73) M-T: S. 73-75】

㉑ 後に残す mit, 条件の mit

Er händigte mir die Karte ein **mit der Aufforderung**, ihn zu besuchen. 「彼は切符を私に手渡し、自分のところに来るようにと促した」 | Zugleich übergab er ihr eine Banknote **mit der Bitte**, alles Nötige zu besorgen, ... (Keller) 「と同時に彼は彼女に一枚の紙幣をわたし、必要なものすべてを調達するように頼んだ」 | Wir aber schließen unsere Erzählung **mit dem Wunsche**, daß der Leser ... (Die Heiteretei) 「私たちはこの物語を終えるにあたり、読者が...すると望みたい」

♥ in で表現することもできる。

Er ging hin **in der Absicht**, sie allein in ihrem Zimmer zu treffen. 「彼は彼女と二人だけで会うつもりで彼女の部屋に行った」 | **in der Hoffnung**, daß ... 「...という希望を持って」

【文例集 (73) M-T: S. 98-107; 文例集 (80) in: S. 250-251】

㉒ inneres Objekt 的 mit

und dachte für jetzt **mit keinem Gedanken** mehr an den toten Mann (Raabe) 「そしてさし当たっては、もはや死んだ男のことは考えなかった」 | Auch dachte er **mit keinem Gedanken** an das bevorstehende Ende dieses Tages. (Heyse) 「彼はまた、間近に迫ったこの日の終わりのことは頭になかった」 | Ich sterbe, mein Weib. Küsse mich **mit dem letzten Kusse** und nimm meine Seele hin in deinen Armen! 「私はもう死ぬ。最後のキスをしておくれ。そして私の魂をお前の腕の中に受け入れておくれ！」 | So schritten beide rüstig voran, Simon **mit dem festen Schritt des abgehärteten Wanderers**, Friedrich schwankend und wie im Traum. (Droste-Hülshoff) 「そういうわけで二人は元気に前に歩いていった、Simon は鍛えた遍歴職人のようなしっかりした足取りで。Friedrich はよろけながら、夢見ているように」 | Da bin ich zurückgesprungen **mit einem wilden Sprung** durch ein rot und gelbes Tulpenbeet in die dämmerige Kühle des Hausflurs. (Raabe) 「そこで私は赤と黄色のチューリップの花壇を越え、暗く涼しい玄関の間へ、おもいきってひと飛びしてもどった」

【文例集 (73) M-T: S. 129-140】

2. 引用文献

佐藤清昭 (2000): 関口存男による前置詞の意味分類 —「激突急停止の in」(ほか)と「前置詞論」—.

所収: ドイツ語学研究(冠詞研究会) 10, 11-48 ページ.

— (2002): 前置詞研究のあり方. 「関口存男: 前置詞論」試案 — an を例として. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 16, 31-53 ページ.

－ (2003): 関口存男における前置詞 auf. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 17, 43-66 ページ.

－ (2004): 関口存男における前置詞 in. 所収: 浜松医科大学紀要 一般教育 18, 53-79 ページ.

関口存男 (1932): 新ドイツ語文法教程. 三省堂 1980.

－ (1933): 意味形態を中心とするドイツ語前置詞の研究. 三修社 1977.

－ (1935-39): 獨作文教程. 三修社 1971.

－ (1960/61/62): 冠詞. ー 意味形態的背景より見たるドイツ語冠詞の研究 ー. 3 卷 三修社 1976.

－ (1994): 関口存男生誕 100 周年記念著作集 別巻. 三修社.